妙専寺寺報

光城山
妙専寺
31号

永代供養合同墓法要

昨年、住職継職記念事業の一環として永代供養合同墓を妙専寺境内地に安置致しました。それに伴い今年から夏の盆法要とあわせて、「永代供養合同墓法要」を厳修することとなりました。今年は7月２４日に法要が執り行われ、縁ある方々が手を合わせに参られました。合同墓を機縁として法要に参られ、仏法をお聴聞される方が増えることを願っております。

お盆の暑い中、お参りされたご家族の方々。

大谷本廟団体納骨

大谷本廟は浄土真宗の宗祖であります親鸞聖人のお骨が安置されているお廟です。妙専寺では９月２５日に団体参拝での納骨に行ってきました。

まず大谷本廟に納骨を行い参加者全員でお参りを致しました。納骨壇には昔の懐かしい方のお骨も有り涙を流される方もありました。

秋のお彼岸の大谷本廟。こちらは親鸞聖人のお骨が安置されている明著堂。

その後昼食に京都ならではの美味しい湯葉懐石をいただき、東山清水のあたりで京都のお土産もたくさん買いました。

最後には本山西本願寺の阿弥陀堂、御影堂にお参りし、京都をあとにしました。

納骨されずにお参りだけされる方もご参加いただけます。２、３年ごとに企画致しますので皆様も次回どうぞご参加ください。

自分でくみ上げていただく湯葉料理は豆乳の甘みがありとっても美味しかった。清水坂に並ぶお土産屋さんも賑やかで、また次回も是非お参りしたいとおっしゃられる方も。

〒739-2401　安芸津町木谷２８６５　TEL0846-45-1034　http://www.myosenji.net/

一言法座

法要では様々なご講師の先生が分かりやすく仏様の教えを説いてくださいます。その中のほんの一部を掲載致します。全て聞きたい方は是非、法要にお参りください。

１１月１６日　報恩講法要
藤田徹文師の法話を要約

仏陀（ブッダ）とは「目覚めた者」という意味です。仏教は目覚めの宗教なのです。私達は毎朝目を覚ましているというけれど、本当は目を開けたまま寝ていませんか？私のいのちの姿に目覚めていますか？

昔は「お元気ですね」と言ったら「おかげさまで」と返ってきていました。しかし今は「お元気ですね」と言ったら「ええ毎日１時間歩いてますから」とか「高い薬を飲んでますから」と返ってきます。自分が努力できているのも、周りのおかげなんです。おかげさま（縁起）の中で生かされている、私のいのちの姿に気づいていかねばなりません。

「阿弥陀仏」は「無量寿仏」とも言われます。無量のいのちの仏様です。

「南無阿弥陀仏」のお念仏を申しながら、「私一人で生きているいのちではなかった、無量のいのち（無量寿）の中で生かされているいのちであった、お慈悲の中のいのちであった」と目覚めさせていただき、うれしいなあ、おはずかしいなあと、喜び（歓喜）と、反省（慚愧）の人生を歩ませていただきましょう。

１月１５日１６日　ご正忌法要
吉村隆真師の法話を要約

亡くなる前のことを「生前」と言います。亡くなる前のことなのになぜ「死前」ではなく、「生前」と言うのでしょうか。お念仏の人生を歩まれた方は、仏様として浄土に生まれさせていただきます（往生）。だから生まれる前と書き「生前」と言うのもうなずけます。すなわちお念仏に出会った方は、人生のゴールが「死」ではなく「往生」へと変わるのです。

ある１１歳の女の子が、がんに罹患し余命３ヶ月の宣告を受けました。ご両親はその女の子にごめんねと泣き崩れました。しかしその女の子は残りの９０日間、１日を１年として生きたのです。朝日がのぼると春を感じ、昼になると夏を楽しみ、夕暮れ時になると秋を思い、夜には冬が来たと眠るのです。この女の子が過ごした１日は、ただ何となく過ごしてしまう１日とは全く違います。

お釈迦様は「いのちの意味に目覚めず１００年過ごすより、いのちの意味に目覚め１日過ごす方が優れている」と説かれました。この女の子は１００年分人生を生き、両親にありがとうと感謝の言葉を残していったのです。残されたご両親も後悔ではなく、感謝で娘さんのことを思い人生を歩んで行かれたことでしょう。

お念仏に出会うと、人生のゴールは「死」という、別れや、絶望ではなく、「往生」という、あたらしいいのち、希望へと変わるのです。お念仏とともに、尊い今日を歩ませていただいていることに感謝しながら、一日一日を大切に過ごさせていただきましょう。

４月４日５日　永代経法要
服部法樹師の法話を要約

仏教に関係の深い蓮の花は「華果同時」すなはち、花が咲いたときにもう実も結んでいるのです。「真実」に出会うとは、苦労はあるけれども必ず実を結ぶということです。親鸞聖人は真実の意味を「かならず

ものの実となる」とおっしゃられました。その反対に「虚仮」「むなしい」とは苦労しても中身が無いということです。

猫に小判と言うけれど、猫は苦労して百万円手に入れても虚しい、それより煮干しを手に入れる方が実となるのです。豚に真珠と言うけれど、豚も苦労して百万円手に入れても虚しい、それよりえさを手に入れる方が実となるのです。皆さんは百万手に入れることに苦労して人生を歩まれますか。それともいのちに意味を与えてくださる、いのちの実となるお念仏に出遇う人生を歩まれますか。

５月２０日　降誕会法要　根来暁師の法話を要約

生まれたときはそこにいるだけで素晴らしい存在だったのに、はえば立て、立てば歩けと、もっともっとと欲がふくらんでしまいます。また、年を重ね６０才を迎えたある方が「今までは足し算の人生じゃったが、これからは引き算の人生ですわい」とおっしゃられました。

法名をいただくのは、死んでからの名前をもらうのではありません。これからの人生何を拠りどころとし、何を支えとして生きていかねばならないかということです。

欲の目や、比べる目から見た引き算で、虚しいまま終わらせはせんぞと、このありのままのいのちに大きな意味を与えてくださるのが阿弥陀様のおはたらきです。

７月２３日２４日　盆法要　伊川大慶師の法話を要約

「仏教は役に立つのか」と聞く方がいるがそれはおかしい質問です。「親は役に立つのか」という質問がおかしいと感じるのと同じです。

「親は人生の支えとなってくれたか」と問えば様々なことを思い出すように、仏教も様々な場面で人生の支えとなってくれるものなのです。

父親は幼子が泣いていると「泣き止んでくれ」とだっこをするが、母親は「泣いたらいいよ、泣きんさい」とだっこをします。

仏様は「大丈夫だよ」とどんなときも一緒にいてくださいます。仏様のいる場所は、悲しいときにちゃんと悲しめる場所なのです。ちゃんと悲しめたらまた元気が出てきます。お念仏に導かれしっかりとこの人生を歩んでいけるのです。

９月１５日１６日　地域法座　牛尾かおり師の法話を要約

仏教詩人の榎本栄一さんは、何のために結婚するのかという問いに、「夫婦で意見が違うのがおもしろい、自我の強さがよく分かってくる。自我が折れていく」と答えました。また、「人間の晩年がおもしろい、体は衰えるが、いのちの目が見えてくる」と言われました。

我慢することや、年をとること、そうした一見愚痴のもとになることが、そのまま貴重な気づきに変わり、人生の喜びに変わっていくのです。

普段、外にばかり向き比べてばかりいた目が、内に向きいのちを見つめるようになるのです。

妙好人のお軽さんは「もろうた、もろうた、いい智慧もろうた、愚痴が感謝に変わる智慧」とうたわれお念仏を喜んで生きていかれました。

やがては死んでいくこの身をどう受け取っていくのか、このいのちの解決を聞かせてくださるのが仏様の導きです。生老病死のこの人生をありのまま受け止めてくださるのが阿弥陀様のおはたらきです。

住職法話

平成３０年７月豪雨では、広島を中心として多くの地域が被害に遭いました。皆様のところもこれまで経験されたことの無いような被害を受けたことだろうと思います。心よりお見舞い申し上げます。

今回の災害の中で気づかされたことは、日頃当たり前と思っていることが、本当は当たり前のことでは無いということでした。

水道の蛇口をひねれば水が出てくるのが当たり前の生活をしていましたが、それは当たり前のことではありませんでした。店に行くと必要なものはいつでも何でも並んでいるのが当たり前だと思っていましたが、それも当たり前のことではありませんでした。私たちの生活は多くの支え、多くのおかげによって成り立っていたのだということをあらためて知らされました。

また、家族が一つ屋根の下でともに時間を過ごすことができること、ともに話をすることができることも、当たり前のように思っていたが、それも当たり前のことではありませんでした。いつ住んでいた家が住めなくなるかも知れない、いつ家族がいなくなってしまうかも分からない現実を知らされました。家族がそろい一つ屋根の下でともに時間を過ごすことができることは、非常に有り難いこと、尊い時間であったんだとあらためて知らされました。

私たちは今、仏様のお慈悲の中、また多くのご先祖の方の導きの中、多くの方の支えの中、生かされているのです。それは決して当たり前のことでは無く、尊い時を生かされているのです。大変な時代を仏様を拠り所として歩みぬかれた親鸞聖人のように、私たちも何があってもしっかりと導いてくださる阿弥陀様のたのもしさに感謝しながら、手をあわす日々を送らせていただきましょう。そして今回の災害のようなことが起きたとしても、何があってもともに支え合っていける、自他共に心豊かに生きぬいていける、仏様にそしてお互いに手が合わさっていく人生を歩んでまいりましょう。

秋初穂のお願い

平素は寺院護持に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

今年度もご無理なお願いでございますが、お初穂を十二月五日にご仏前にお供えを戴きまして、仏祖の御冥助に感謝申し上げたいと存じます。

ご多忙中とは存じますが、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

土曜学校

お友達と誘い合って、お経やゲームをしながら仏様の教えを学びましょう。毎月第二土曜日朝九時より十時

法座案内

御正忌法要
一月十五日（火）
十六日（水）
御講師　田中唯信殿

光寿会法座
三月　五日（火）
御講師　法林英俊殿

永代経法要
四月十一日（木）
十二日（金）
御講師　桑原浄正殿